

広島県緑化センター 7月の開花マップ



A ウマノスズクサ



B キササゲ



C クサギ



D クズ



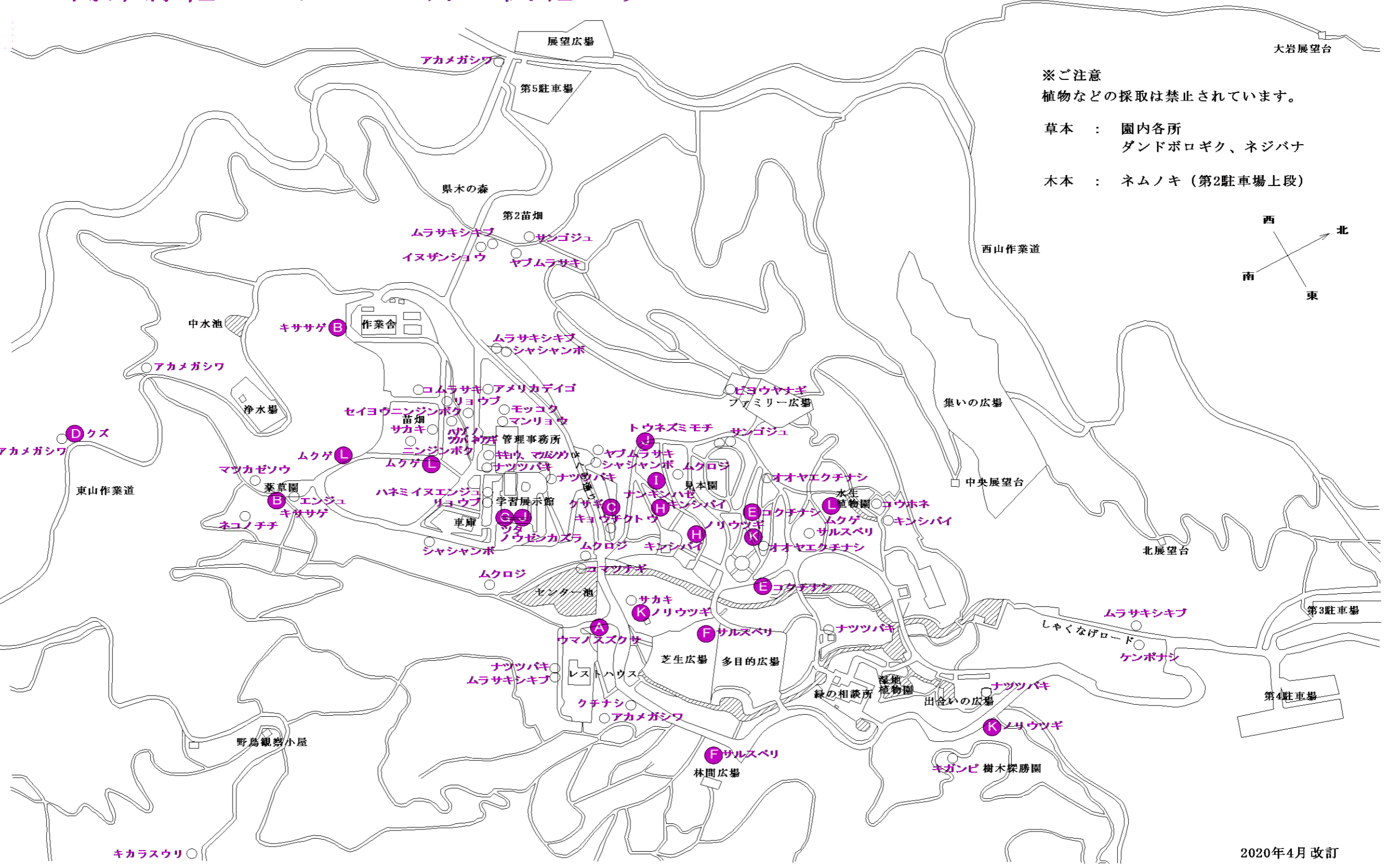
E コクチナシ



F サルスベリ



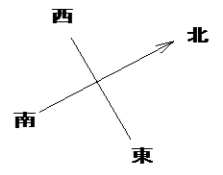
G ツタ



※ご注意
植物などの採取は禁止されています。

草本 : 園内各所
 ダンドボロギク、ネジバナ

木本 : ネムノキ (第2駐車場上段)



2020年4月改訂



H キンシバイ



I ナンキンハゼ



J ノウゼンカズラ



K ノリオツギ



L ムクゲ

ここに掲載のない植物写真や、植物の詳しい解説はホームページをご覧ください。

<https://ryokka-c.jp/guide/>



7月 開花マップ

植物名	科名	属名	別名	自生・植栽場所	平均開花 確認日	解説	備考
アカメガシワ	トウダイグサ	アカメガシワ		藤ヶ丸登山道入口	6/25	林縁などの明るいところに多い。花は6～7月、枝先に7～20cmの円錐花序をだす。花に花弁はない。果実は直径約8ミリの扁球形で刺状突起が密生し、9～10月に褐色に熟す。薪炭材やヒラタケ栽培に利用される。	
アメリカデイゴ	マメ	デイゴ	カイコウズ	管理事務所横	6/30	ブラジル原産、暖地の低木として植えられる。枝や葉柄には刺がある。葉は3出複葉で互生し、小葉は卵状楕円形。花は6～9月に開花、枝先に総状花序をつけ、蝶形の暗紅色の花をつける。鹿児島県の県木。	
イヌザンショウ	ミカン	サンショウ		第2苗畑、溪流路	7/26	林縁や道端などに生育、高さ3m。花は雌雄別株、7～8月に枝先に3～8cmの散房花序をだし、黄緑色の小さな花を密につける。果実は3個に分かれ、9～10月に熟す。サンショウは刺が対生するが、本種は葉や果実に香りが少ないことで区別できる。	
ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ		レストハウス入口坂	7/15	花は横向き、萼はラッパ状で長さ3～5cm、基部は球形。体内に有毒成分があり、この草を食草としているジャコウアゲハは、毒のあるチョウとして鳥に襲われることが少ない。和名は果実が馬の首にかける鈴に似ていることによる。	
エンジュ	マメ	エンジュ		薬草園入口	7/21	中国原産で庭木や街路樹として植栽され、高さ20mほど。樹皮は灰褐色で縦に割れ目が入り、内皮は黄色で臭気がある。花は7～8月、枝先に約30cmの円錐花序をだし、黄白色の蝶形花をつける。果実は豆果、長さ4～7cmで数珠状にくびれる。	
オオヤエクチナシ	アカネ	クチナシ		見本園	6/25	クチナシの八重咲きで、花が大きい。葉は対生か3輪生し、全縁。革質で両面とも無毛。花は6～7月、枝先に芳香のある白く大きな花をつける。	
キガンピ	ジンチョウゲ	アオガンピ	キコガンピ	樹木探勝園	7/26	本州(近畿地方以西)、四国、九州に分布し、山地の日あたりのよい林縁や岩場に生息する。花は7～9月、枝先に黄白色の花を数～10個つける。果実は乾いた核果で、核は長さ3cmほどの紡錘形。樹皮は和紙の原料にされる。	
キキョウ	キキョウ	キキョウ		管理事務所前	7/19	日当たりのよい山地などに生え、高さ50～100cmの多年草。花は7～9月、茎の先に直径4～5cmの鐘形の青紫色の花が数個咲く。秋の七草の朝貌はキキョウのことだと言われる。	
キササゲ	ノウゼンカズラ	キササゲ	アズサ	薬草園	6/18	中国原産で川岸などの光のよくあたる場所に野生化し、高さ5～15mになる。花は6～7月、枝先に長さ10～25cmの円錐花序をだし、黄白色の花を多数つける。果実は利尿剤に使われ、樹皮や根は解熱剤や駆虫剤に利用される。	
キョウチクトウ	キョウチクトウ	キョウチクトウ		センター池下	6/14	インド原産で江戸時代中期に渡来したと言われる。花は6～9月、枝先に集散花序をだし、次々に花を開く。花色は、ピンク・赤・白など、八重咲き品種もある。果実は10～14cmの線形で、直立して付き、熟すと縦に裂けて種子を出す。	
キンシバイ	オトギリソウ	オトギリソウ		見本園	6/18	中国南部原産で庭木・公園樹として植栽され、花は切花にされる。高さ1mほど。花は6～7月、枝先に直径3～4cmの黄色の花をつける。キンシバイは雄しべが花弁より短い、ビョウヤナギは雄しべが花弁より長い。	
クサギ	シソ	クサギ		見本園スロープ沿 い他	7/31	日当たりのよい山野の林縁などに生育し、高さ4～8m。花は7月下旬～9月に枝先や上部の葉腋から集散花序を出し、芳香のある花を多数つける。果実は6～7mmの球形で10～11月に熟し、光沢のある藍色になる。	
クズ	マメ	クズ		園内	7/16	山野で普通に見られる大型のつる性草本。葉は3小葉。7～9月に紅紫色の蝶形花が穂状に集まって咲く。根にでんぷんを含み、これを葛粉にして食用、薬用に供する。和名は奈良県の国栖(くず)が葛粉の産地であったことによる。	
クチナシ	アカネ	クチナシ		見本園 レストハウス下、えん堤	6/25	林縁に生育し、高さ1～2mになる。枝ははじめ緑色、のちに灰緑色になる。花は6～7月、枝先に芳香のある白色の花を1個ずつつける。花の先は5～7裂する。八重咲きのものもあり、葉も花ひとまわり小さいものはコクチナシ。	
ケンポナシ	クロウメモドキ	ケンポナシ		しゃくなげロード	6/25	葉は互生し、2枚ずつ付く。左右不対称。花は6～7月に緑白色の小さな花をつける。果実は紫褐色に熟す。花序の軸は花のあと膨らんで、果期には食べられる。材は器具等に利用される。	
コウホネ	スイレン	コウホネ		水生植物園	5/30	浅い池や沼などに生える多年草の水草。長く直立した円柱形の花柄の先に、黄色の花を1個上向きに開く。和名は河骨で、根茎が白骨のように見えたことによる。鎮静、利尿、止血などの薬効あり。	

7月 開花マップ

植物名	科名	属名	別名	自生・植栽場所	平均開花 確認日	解説	備考
コクチナシ	アカネ	クチナシ	ヒメクチナシ	見本園	6/30	クチナシの変種。高さ30～40cm程度で、地面を這うように育つ。葉は倒披針形で細長く、ほぼ無柄。花は小輪で八重咲き。	
コマツナギ	マメ	コマツナギ		センター池ほとり	8/19	草地や川の土手、道端などの日当たりがよく、やや乾いたところに群生する。高さ40～80cmの草本状の小低木。葉腋に長さ4～10cmの総状の花序をだし、淡紅紫色の花をやや密につける。	
コムラサキ	シソ	ムラサキシキブ	コシキブ	苗畑	6/13	山麓の湿地などに生育し、高さ2m。花は7～8月に葉腋のやや上から集散花序を出し、淡紅紫色の花を10～20個つける。ムラサキシキブとの違いは、葉の鋸歯が上半分にしかないこと、花序の柄が葉腋より上につくことなど。	
サカキ	サカキ	サカキ	マサカキ	レストハウス進入路下	6/29	山地に生育し、神社などに植栽される。6～7月に白色の花が1～3個束生し、後に黄色味を帯びる。果実は11～12月に黒紫色に熟す。名前の由来は常緑なのでサカエキ(栄木)、神の静まる地のサカヒ(区域)の木など諸説ある。	
サルスベリ	ミソハギ	サルスベリ	ヒヤクジツコウ	芝生広場、林間広場 見本園他	8/4	中国南部原産で江戸時代以前に渡来、高さは大きいもので10mになる。花は7～10月に百日近くにわたって咲き続ける。花色はピンク・白・赤などがある。名前の由来は、木肌がなめらかで、猿もすべり落ちるという意味から。	
サンゴジュ	レンブクソウ	ガマズミ		見本園、第2苗畑	6/19	海沿いの谷などに生育し高さ20mになる。花は6月、枝先に5～16cmの円錐花序をだし、白色の花を多数つける。果実は8～10月に赤くなり、完熟すると黒くなる。名前の由来は、赤い果実がたくさん付き珊瑚に見立てたことによる。	
シャシャンボ	ツツジ	スノキ	サンブノキ・ワクラハ	さくら通り、車庫横法面	7/27	花は5～7月、3～8cmの総状花序を出し白い花を下向きにつける。果実は9～10月に紫黒色に熟し、甘酸っぱくて食べられる。名前は小さな実が多数つく様子を小さい坊や「小小ん坊」と呼んだものが転訛したと言われる。	
セイヨウニンジンボク	シソ	ハマゴウ		苗畑	7/12	南欧原産の落葉低木。花は両性、7～8月に開花する。枝先に円錐花序を出し、淡紫色の花を密に多数つける。果実は球形の核果。類似種のニンジンボクは、小葉が3～5枚で粗い鋸歯が目立ち、花は淡青紫色でまばらにつく。	
ダンドボロギク	キク	タケダグサ		園内	7/17	北米原産の帰化植物、高さ50～150cmの1年草。伐採跡や崩落地で真っ先に育ち、群落をつくる。枝分かれした茎の上部に多数の筒型で2～3cmの頭花をつける。冠毛は白く、風に乗って飛び散る。名は冠毛をボロに例えたことによる。	
ツタ	ブドウ	ツタ	ナツツタ	学習展示館	7/16	山地に生える。秋の紅葉が美しく、壁や塀に這わせる。花は両性または雑居性、短枝に集散花序をつけ、長さ3～6cm。果実は球形の核果で、10～11月に黒く熟し、表面に白い粉をつける。	
トウネズミモチ	モクセイ	イボタノキ		見本園	7/4	ネズミモチより大木となり葉も花序も大きい。ネズミモチの葉は光にかざしても葉脈は見えないが、本種では明瞭。果実はほぼ球形で径0.8～1cm、紫黒色に熟す。果実をつぶしても指は染まらない。中国原産で明治初期に渡来した。	
ナツツバキ	ツバキ	ナツツバキ	シャラノキ	管理事務所前他各所	6/10	樹皮はなめらかで10年ぐらいで古い樹皮が薄片状にはげ落ち、灰白色や赤褐色の大きな斑紋になる。花は6～7月本年枝の葉脈に直径5～6cmの白い花をつける。花弁は5個、ふちは波打ち、細かい鋸歯がまばらにある。	
ナンキンハゼ	トウダイグサ	ナンキンハゼ		見本園	7/10	中国原産の落葉高木で江戸時代に渡来。花は7月、枝先に黄色の小さな花を多数つける。秋の紅葉も鮮やか。種子の表面はロウ質に包まれ、このロウを精製しロウソクや灯用に用いられた。	
ニンジンボク	シソ	ハマゴウ		苗畑	未確認	中国原産の落葉低木。葉は掌状複葉で対生、小葉は楕円形で粗い鋸歯が少しある。花は両性、7～8月枝先に円錐花序を出し、淡青紫色でまばらにつく。果実は薬用に利用される。類似種のセイヨウニンジンボクは、小葉が5～7枚で細長い。	
ネコノチチ	クロウメモドキ	ネコノチチ		薬草園下遊歩道沿い	6/24	花は5～6月、葉腋に直径約3.5mmの黄緑色の花が4～8個つく。果実は長さ8～10mmの長楕円形。黄色から黒色に熟す。和名は果実をネコの乳首に見立ててつけられた。	
ネジバナ	ラン	ネジバナ	モジズリ	管理事務所前	7/8	日当たりのよい草地や芝生に生える多年草。土中には白色で多肉の紡錘根がある。葉の間から高さ10～30cmの花径を出し、桃紅色の小さい花が多数つく。花茎は緑色で上部がねじれ、毛がある。	

7月 開花マップ

植物名	科名	属名	別名	自生・植栽場所	平均開花 確認日	解説	備考
ネムノキ	マメ	ネムノキ		第2駐車場上段	6/29	葉は互生、2回偶数羽状複葉、7～12対の羽片がほぼ対生する。夜になると枝は垂れ下がり、小葉が閉じて眠っているように見える(就眠運動)。花は6～7月に枝先に淡紅色の花が10～20個頭状に集まって咲く。	
ノウゼンカズラ	ノウゼンカズラ	ノウゼンカズラ		学習展示館	6/26	中国原産で平安時代に渡来したと言われる落葉つる性木本。付着根を出して樹木や壁面に這い上がる。花は7～9月に枝先から垂れ下がった円錐花序に橙赤色の大きな花をつける。果実はほとんど結実しない。	
ノリウツギ	アジサイ	アジサイ	ノリノキ・サビタ	見本園	6/28	低木林や林縁など、山地の日当たりのよいところで見られ、高さ2～5m。花は7～9月、枝先に8～30cmの円錐花序を出す。装飾花は白色で、萼片は3～5個、両性花も白色。果実は9～11月に熟す。	
ハナゾノツクバネウツギ	スイカズラ	ツクバネウツギ	アベリア ハナツクバネウツギ	管理事務所前法面他	6/29	よく分枝して茂り、高さ2mほど。花は6～10月、枝先や葉脈から円錐花序をだして、1.5～2cmの漏斗状の花を多数つける。花は白色でふつうやや淡紅色を帯びる。花後に萼片が残りがよく目立つ。結実しない。	
ハネミイヌエンジュ	マメ	イヌエンジュ		学習展示館裏法面	8/2	花は7～8月、枝先に総状花序を数個出し、長さ7～10mmの白い蝶形花を多数つける。旗弁は後方に強く反り返り、がくに接する。枝は折るとソラマメに似た臭気がある。	
ビョウヤナギ	オトギリソウ	オトギリソウ		ファミリー広場上	6/14	中国原産で古くから植栽され、高さ0.5～1.5m。花は6～7月に枝先に直径4～6cmの大きな黄色の花をつける。雄しべは多数あり、約30個ずつ5つの束になっている。雄しべが花弁より長く、キンシバイは雄しべが花弁より短い。	
マツカゼソウ	ミカン	マツカゼソウ		東山作業路、薬草園	7/26	暖地の林縁に多く、高さ50～80cmの多年草。枝先に花序を出し、白色の小さな花を多数つける。葉には油点があり、もむとかんきつ類のような香りがする。名は秋風に揺れる草の姿から風流人が名づけたとされる。	
マツムシソウ	スイカズラ	マツムシソウ		管理事務所 駐車場前法面	7/22	山地の草原に生える2年草。根生葉はロゼット状で冬を越す。花は紫色、直径4cmほど。上向きに咲く。縁の小花は5裂し、外側の裂片は大きい。	
マンリョウ	サクラソウ	ヤブコウジ		管理事務所前	7/28	暖地の林内に自生し、観賞用に広く栽培される。花は7～8月、前年枝の葉腋から散形状の花序を出し、白色の花を10個程度つける。果実は球形の核果で11～4月に赤く熟す。	
ムクゲ	アオイ	フヨウ	ハチス	見本園	6/25	各地で栽培され植栽されおり、高さ3～4m。花は8～9月、本年枝の葉脈に花をつける。花弁の色は様々で一重・八重咲き等がある。韓国の国花。	
ムクロジ	ムクロジ	ムクロジ		センター池西岸	6/25	山地に生え、樹高15～20m。葉は偶数羽状複葉で、小葉は4～6対。花は雌雄同株で6月に黄緑色の小さな花を多数つける。果実は10～11月に熟し、中に黒い種子をつける。これを羽根つきの球に利用する。	
ムラサキシキブ	シソ	ムラサキシキブ	ミムラサキ	レストハウス裏他	6/10	山野の林内や林縁に生育し、高さ3m。花は6～8月に葉腋から集散花序をだし、淡紅紫色の花をつける。果実は直径3mmほどの球形で、紫色に熟す。果実はコムラサキに比べるとややまばら。	
モッコク	サカキ	モッコク	アカミノキ	管理事務所横坂	7/10	海岸付近の比較的乾燥した場所に生育し、高さ10～15m。葉は互生し、枝先に集まってつく。厚い革質で表面はやや光沢がある。花は6～7月に下向きにつけ、白色でのちに黄色を帯びる。果実は10～11月に赤く熟す。	
リョウブ	リョウブ	リョウブ	ハタツモリ	学習展示館裏法面 苗畑前園路他	6/30	丘陵や山地の尾根、乾いた落葉樹林内に多く、高さ8～10m。樹皮は茶褐色で古くなると不規則な薄片になってはがれ落ち、まだら模様になる。花は6～8月に枝先から10～20cmの総状花序をだし、白い花を多数つける。	